

氏名(本籍)	山 下 清 海 (福岡県)
学位の種類	理 学 博 士
学位記番号	博 乙 第 316 号
学位授与年月日	昭和61年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	A geographical study on the segregation of Chinese dialect groups in Singapore. (シンガポールにおける華人方言集団のすみわけに関する地理学的研究)
主査	筑波大学教授 理学博士 山 本 正 三
副査	筑波大学教授 理学博士 奥 野 隆 史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐 々 木 博
副査	筑波大学助教授 理学博士 高 橋 伸 夫
副査	筑波大学助教授 理学博士 石 井 英 也

論 文 の 要 旨

本研究は、シンガポールの華人方言集団を例にして、都市における民族集団のすみわけの空間的パターンを明らかにするとともに、すみわけがいかなる要因によって形成されるか、また、そのようなすみわけが、どのような要因によって変化するかを解明することを目的としている。

そのため、まず、華人会館およびそれらの会員の分布、さらに華人が創立した廟の分布を地図化するることによって、華人方言集団のすみわけパターンとその変化を把握した。次に、華人方言集団のすみわけの形成を促した要因について考察した。最後に、最近になって華人方言集団のすみわけが崩壊しつつあることを指摘し、すみわけの崩壊を促した要因について考察した。

この結果、次のことが明らかになった。

- 1) 1819年のシンガポール開港以来、1960年代まで、華人方言集団のすみわけが明瞭に認められた。すみわけパターンは、シンガポール川を挟み、南岸地区と北岸地区で著しい対照をなしていた。
- 2) 華人方言集団のすみわけの形成要因としては、華人の移住過程における地縁的連鎖、華人社会内部に存在するすみわけ形成の要因(内的要因)、華人方言集団の特定の職業分野への集中(経済的要因)が重要なものとして指摘できた。

- 3) 華人方言集団の伝統的なすみわけは、シンガポールのマレーシアからの分離独立（1965年）後、とりわけ1970年代以降、崩壊し始めた。
- 4) 華人方言集団のすみわけの崩壊要因としては、華人をとりまく言語環境の変化（とくに英語優先化）、華人のシンガポールへの定着化の進行と華人方言集団内の相互扶助機能の低下、外資導入による工業化の進展に伴う華人の伝統的経済構造の変化、都市再開発の進行による華人方言集団の集中地区の崩壊、華人方言集団のすみわけの崩壊を促進させる人民行動党政府の諸政策、が重要なものとして指摘できた。

審 査 の 要 旨

本論文は発展途上国の都市における民族集団のすみわけの形成と変化の過程を、シンガポールの華人方言集団の事例を用いて明らかにした点に特徴がある。

従来、都市における民族集団のすみわけに関する研究では、人口統計資料の利用が可能な欧米先進国の都市を対象としたものが圧倒的に多かった。しかし、山下氏はシンガポールを研究対象として選択し、華人社会の強い地縁的、血縁的結びつきに着目し、華人の会館およびそれらの会員などの分布を追跡するという方法によって、都市成立以来のすみわけの形成および変化を明確に示した。また、従来の研究では植民地宗主国側の資料に大きく依存する傾向にあったが、山下氏は2年間にわたる現地調査によって、華人社会内部に存在する中国語資料を広範に収集し、それらを詳細に検討した。

この研究は、ある時点におけるすみわけの実態を考察するにとどまらず、植民地支配下においてすみわけが形成され、独立後の近代化過程においてそれが崩壊して行くまでを動的に把握した点で特筆に値する。

本研究の成果をさらに一層一般性のあるものにするためには、近代化が遅れているその他の東南アジア諸国をはじめとして、多くの発展途上国の都市との比較検討が必要であろう。しかし、統計と文献資料の乏しい発展途上国の都市において、民族集団のすみわけを解明する方法を提示し、近代化に伴うすみわけの変容の一つのパターンを明示した点は、きわめて注目に値する成果である。

以上の理由により、本論文には高い評価を与えてよい。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。